町長コラム

温故創新

立谷沢流域はすごいぞ

庄内町長　富樫透

「月山に学び地域を知る講座」に参加してきました。普段何気なく見ていた風景が、その成り立ちや歴史をたどると、なるほどと思える背景やドラマチックな展開があり大変勉強になりました。

たとえば、６００万年前立谷沢地区は海でした。科沢集落では、後にクジラの化石や貝化石床などが発見され県立博物館にも展示されています。また、月山は古いカルデラの中にできた火山で、立谷沢川は外輪山の内側と断層に沿って流れるため大量の水量の川になったとのこと。同時に、多量の土砂が流れ砂金を運び、その暴れ川が広い平野を作ったなど、興味深いお話がありました。

その中でも瀬場の大石は縄文時代の早期、約１万年前に流れてきたと言われています。高さ３ｍ、体積３００㎥、重さ８００ｔもの巨岩が流れる水量は容易に想像できませんが、まさにノアの箱舟のようなイメージだったのかも知れません。

時は流れ、その立谷沢川を改修するために１９３０年代より河川改修、砂防事業が始まり、約90年が過ぎました。２０１７年には六渕砂防堰堤と瀬場砂防堰堤が登録有形文化財に登録されました。また、下流の北楯大堰は２０１８年に世界かんがい施設遺産に登録されています。瀬場の大石も、日本の奇岩１００選に登録すべきなどのご意見もありました。

この講座も、県外からの参加者やすぐに募集定員になったことを考えると、改めて観光素材は非常に多いことに気づかされました。地域資源の掘り起こしと情報発信、インバウンドにむけた観光振興へのヒントをいただいた1日でした。